

令和 6 年 6 月 6 日 議会のあり方調査研究特別委員会 議事録
10時00分 開会

○出席委員 (8人)

委員長 寺岡 公章

副委員長 末広 天佑

委員 豊川 和也、山代 英資、岡 和明、小出 哲義、小田上尚典、
細川 雅子

○欠席委員 なし

○傍聴者 なし

○寺岡委員長 皆さん、おはようございます。ただいまから議会のあり方調査研究特別委員会を開きます。

まずは、今日はテーマ②の決定をできればしていこうかと考えています。それに先立ちまして、前回の会議でお願いしていたワークシートを御記入いただきました。皆さん真剣に記入していただいた跡が全委員から見られて、感謝と恐縮でいっぱいでございます。どうもありがとうございました。

月曜日の夕方までに皆さん出していただいて、その後、集計をさせていただきました。集計作業、結構ややこしいところもあったんですけど、事務局と協力して、お示しさせてもらってます。

令和 6 年 6 月 6 日のフォルダーの中に、それぞれ出していただいた提出分と、ワークシートの集計ということで、文言の抜き出しと取りまとめを一覧表にさせてもらってます。これを決定の本拠といいますか、皆さんお一人お一人の論拠としながら、今から選定作業に入っていければと思います。ちょっと説明させていただきます。

まず一番最初の 5 年後というファイルをご覧ください。皆さんには「御自身が考える 5 年後の大竹市議会の姿はどのようなものですか」というものを掲げていただきました。あくまで、ビジョン、夢ですので、全部が全部このとおり行くかどうかは分かりませんが、それぞれが目指しておられる姿というのが、ここに挙がっているかと思います。

続いて、タイムラインなんですけど、これは 1 年後と 3 年後の結果・成果、それから方向性、これをしてっておかなければならない、やっておくべき、やっておきたい、こういった辺りで皆さんの思いがどの辺りにあるのかを振り分けさせてもらっています。提出いただいた中で、豊川委員に教えてもらいたいんですけど、タイムラインの 1 年以内に結論・成果を得ておきたいというところと、1 年以内に方向性を出しておくべきというところに、選挙時期、定数減が 2 つにかぶってたんですよ。これどちらか 1 つずつにしてもらいたいんですけど、どうしましょうかね。

○豊川委員 すみません、ちょっともう一回お願いします。

○寺岡委員長 1 年以内に結論・成果を得ておきたいというところに、括弧して選挙時期、定数減と、豊川委員から出てます。その 2 段下の方向性を出しておくべきというところも、

選挙時期、定数減がかぶって重複して提出されてたんですよ。これをどちらか1つにまとめてもらわないと。

豊川委員。

○**豊川委員** 方向性を出しておくべきのところの選挙時期、定数減を削除していただければと思います。

○**寺岡委員長** 分かりました。

皆さんそのように訂正をお願いします。

続いて、項目特性。これは名前とか書かずに、このような結果になりましたよと目で見て分かるものをまとめました。それぞれこのように振り分けられています。

最後に、特性の説明ということで、二重丸のついた部分、要は大いにその特性があるというものを説明していただいたんですが、これについて皆さんから提出いただいたものは基本的にコピーペーストしてます。ちょっと文字が間違っていたりしたのは、こちらで直させていただきました。

これらを昨日朝ですかね、送らせていただいて、メールも事務局から発信させていただいて、しっかり御覧になっていただけたと思いますので、これで今日は議論ができたかなと考えております。

この資料について、何か質問ありますか。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○**寺岡委員長** いいですかね。

では、まず最初に、皆さん御提出していただいたものに補足して発言したい方がいらっしゃったら、それを許可したいと思いますけど、皆さんいかがでしょうか。

小田上委員。

○**小田上委員** 自分の提出したものについてプラスでというところなんですけども。提出したワークシートの個人のものを見ていただいたらと思うんですが。2枚目の、基本的に影響があるかないかというところ、緊急性、直接性、有効性、普遍性、実現性というところで、どれもあるんじゃないかと思ってんですが、その中で定数の有効性のところを空白にしてる理由を少しお話しさせていただければと思います。

定数減の有効性、この有効性の定義というのが、市民生活や議会運営に対していい効果があります。というのは、いい効果だけなのかどうなのか、そもそも定数減によるいい効果は何なのか、選挙、投票になりやすいとかいうことであればあるのかもしれないですし、ただちょっと明確にいい効果というのが分からないので空白にしました。

ひとまず、補足はそれで以上です。

○**寺岡委員長** 定数減の有効性というのは、特にどのように受け取っていいかちょっと不明慮であったと。有効性が意味の取り方が不明慮であったということですかね。

ほか、皆さんから何か発言ありますか。

よろしいですかね。

小出委員。

○**小出委員** 私のワークシートでちょっと1つ訂正をさせていただきたいんですが、1ペー

ジ目の⑤基本条例の深掘りというのを、今回は調査テーマとしないという欄に当てはめていたのですが、その後、会派でのミーティングをして、基本条例の深掘りも一つテーマとして取り上げてたほうがよいのではないかとということで、3年以内に結論・成果を得ておくべきに訂正させていただければと思います。

○寺岡委員長 ただいま訂正の申出がありました。

私も訂正し直すので、少々お時間ください。

あとはどうですか。

末広副委員長。

○末広副委員長 私も、1点訂正させていただければと思うのですが、個人ワークシートで、多分④定数減を当てはめ忘れてるので、これは今回の調査テーマとしないというところにしていただければと思います。

○寺岡委員長 じゃ、特にテーマとしないに④定数減が付け加わると、末広副委員長から申出がありました。

事務局、また後で原本直すのに協力してくださいね。

訂正でもいいんですが、何かほかにはないですか。資料全般、ワークシート全般通じて、まずは御自身のことで発言よろしいですかね。

〔「なし」と呼ぶ者あり〕

○寺岡委員長 それじゃ、一旦、御自身のことは置いて、ワークシートを皆さんが真剣に記入していただいたもの、これをより精査していきたいと思うんですけども。ここからは委員間の討議という形ができたかと思います。

それぞれが真剣に御記入いただいて、真剣に考えてきてくださったものだと思ってます。だからこそ、より突き詰めていって、個人の意見というより今から全体の意見にしていけますので、自分の中でこれってどういう意味なんだろうという小さな疑問も解消していけたらと思います。

自分の考え方と違うケースで、こういうときにはこうしたらいいと思うんだけど、その辺りは考えの中にあるかとか、そういうのもありだと思いますし、このワークシートのまとめの中身をまとめていきたいと思うんですが。委員間討議の時間としたいと思います。いかがでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 これ全体にわたっていいということですよ。聞きたいことを聞いたりとか。

○寺岡委員長 そうです。

○小田上委員 では、ワークシート集計の項目特性を見ていただけたらと思うんですけども。これを見ると、近々で取り組まないといけないと思われてるところが多いのが、緊急性を見れば分かるのかなと思うんですが、選挙時期、それに続いて、モニター制度、議会報告会のあり方となってます。早急に取り組んだほうが良いとは思いますが、その根拠をお持ちだったら伺っておきたいなと。

選挙時期を早めるときにも具体的な策でこういうのがあるよというのが、もし深掘りしていくときにいいのかもしれないですけど、あれば教えていただけたらなと思います。根

抛と策ですね。どういう方法で時期を変えるか、早めるか。

○寺岡委員長 どういう方法については、今から調査・研究も進んでいくと思います。先に、根拠については、特性説明の緊急性が4名、豊川委員、小出委員、末広副委員長で私が緊急性の説明をしてるんですが、これ以外のところで何かあるかということでもいいですかね。
小田上委員。

○小田上委員 早めに研究しなきゃいけないみたいなところはすごく分かるんですけど、強く根拠があるという感じだったので、書いてあることに加えてあるかなと思った程度です。

○寺岡委員長 どなたかお話しできる方いらっしゃいますか。
末広副委員長。

○末広副委員長 多分、私が一番長々書かせていただいていると思うんですけども。どの時期にするかにもよるんですが、ワークシートにも市長選って書いてるんですけど、市長選まであまり間がないので、早急にするべき、結論出すべきじゃないかなというのが一つ理由です。

以上です。

○寺岡委員長 市長選と合わせるとしたら、もう余裕がないだろうということですね。
ほか何かありますか。

私と小出委員は、次の選挙が予想できるので、決めるのは選挙管理委員会ですからあれですけど、予想できるので早めに始めないと間に合わないよという、すごくシンプルなところだと思います。

あと、豊川委員は何かありますか。
どうぞ。

○豊川委員 先ほど、やり方と言われてたんですけど、ちょっと日本全国見てみたら、こういう選挙時期をずらすというのは。

○寺岡委員長 すみません、まだどういう方法かというのちょっと一旦置いてもらってますんで、ちょっと今は置いてください。緊急性について何かあれば、根拠があればお願いします。

○豊川委員 すみません、ちょっと方法論を言おうかなと思ったので。

○寺岡委員長 いろいろ調べてくださってるみたいですけど、事務局が幾つか調べてくれるみたいなんですよ。

今お話しできますか。

○山田議会事務局長 方法論になりますが、持ってきましたか。

○寺岡委員長 持ってこれますか。

豊川委員、万が一、ルール上これ読み違いとかがもし発言の中にあっちゃいけないので、先に事務局に言うてもらいましょう。

○豊川委員 分かりました。

○寺岡委員長 少々お待ちください。

皆さん、この間にほかの方の御意見とかよう見とってから自分の疑問を探してくださいね。

細川委員、どうぞ。

○細川委員 全体を見て今から意見をということなんですけど、その視点としては、今日は次に取り組むべきものを決めていくというのが、今日の決めなきゃいけないことですよね。だから、そっちに収束していく方向で意見を持っていくということですね。

○寺岡委員長 それがありがたいです。よろしくお願いします。

局長、すみません、わざわざ持ってきていただいて。

お願いします。

○山田議会事務局長 まだ詳しく調べているわけではないんですけども、一応、方法としては、さっき豊川委員も少し言われたかもしれませんが議会の解散に関する特例法によって、議決によって自主解散するという方法が取れるということです。

解散の要件ですけども、議員数の4分の3以上の出席で出席者の5分の4以上の同意が必要となっております。

○寺岡委員長 ありがとうございます。

特例法ですね。

豊川委員、何か持っておられる情報で補足してお話しできることはありますか。

○豊川委員 特にありません。

○寺岡委員長 では、小田上委員、この件はこれぐらいでよろしかったですか。

○小田上委員 はい。

○寺岡委員長 細かな中身については、またテーマになったときには入っていこうと思います。

それでは、ほかの意見発言を許したいと思います。いかがですか。

末広副委員長。

○末広副委員長 基本条例の深掘りですけども、これやること自体には私個人的には賛成なんですけども、どうやってやっていくのか、これも方法論になっちゃうんですけど、想像がちょっとつきにくいなというところで。どうやって共有してどういう結果としていくのかというのが、なかなか難しいところだなと思うんですけど、どういうふうにやっていくかでまた結果も変わってくると思うので、何か思いがあれば聞かせていただきたいなと思いました。

○寺岡委員長 お答えできることがありますか。

基本条例の深掘りについては、実現性は7名の方があるというふうに表現しておられますけれども。

それでは、私からいきましょう。

やり方についてはいろいろあると思いますが、今のこの構成メンバーがあと1年3か月ぐらいだろうと思われま。その間に、条文と逐条解説の一つ一つを精査して、施行されてから、これはちょっと具合が悪いね、ほかの規則細則と整合性を取れとるかねというところを、改めて一部一部チェックしていくことになると思います。それで、条文の修正案をつくって、議会運営委員会とも連携しながら、最終的には条例ですので本会議で修正案提出、可決されるかどうかというこういうところの運びになろうかと思います。やり方は

いろいろあると思いますが、それが一番オーソドックスかなと思います。よろしいですか。

○末広副委員長 ありがとうございます。

○寺岡委員長 そのほか、いかがでしょう。

小田上委員。

○小田上委員 実現性があるといったところで、今、委員長も触れられたんですけど、逐条解説の部分が少し直ってない部分もあったりしますし、改正すべき点も、また見ていってたら見つかるのかなと思います。また、基本条例が施行して5年ぐらいたつと思うので、一回見直すには適当な時期かなと思うのと、加えて、講演とか勉強会みたいなものがあると外部の講師の方から基本条例の読み解き方、理解、解釈の仕方を聞くことによって、自分たちはこうだと勝手に思ってることも多いと思うんですね。その幅が広がるので深堀りにもつながるかなと。そういうことはできるんじゃないかと思ってました。

以上です。

○寺岡委員長 末広副委員長に対する説明というのは、これぐらいで説明できたかなと思います。

ほかいかがでしょうかね。

細川委員。

○細川委員 2点ほどあるんですけど、1つは議会報告会のあり方のところなんですけど、私自身はやっていくべきだとは思うんですけども、前回もちょっと疑問を出したんですけど、この委員会でやるべきかどうかという辺りをもう少し整理していただきたいと思うんですよ。

そもそも議会報告会のあり方については、広報広聴特別委員会が議長からの諮問を受けて、もともとつくり上げてきた形だと思うんです。この筋からいうと、広報広聴特別委員会にお願いするのが筋ではないかと思うんで、それを例えばうちの委員会の中で、やっていいのかなと。前回、意見を言える立場なのでアドバイスという意味でやっていいんじゃないかという議長の思いを聞いたので、できるんだと思ったんですけども、広報広聴特別委員会に対する配慮とか、そもそも広報広聴特別委員会が作り上げてきたことなんで、これをうちでやってもいいのでしょうかという。もしやるんなら調整が必要かなというのはちょっと急に心配になってきたので、整理する必要があるかな。いかがでしょうか。これが1つ目。2つ目はまた後で言います。

○寺岡委員長 まず、前回の会議のメモをご覧ください。議会報告会のあり方、広聴という意義とあります。

今、細川委員が御紹介くださったように、議長からは、当委員会は報告会のあり方を班長会議に助言する立場があるというお考えをお聞きすることができています。

広報広聴特別委員会は、今の時点で議会報告会について取り組んでおられるわけではないかなと思います。ですので、もしこれがテーマになれば、委員長同士で話をさせていただいて、御了解いただきながら、もし広報広聴特別委員会で報告会の研究をするにしても、また調整が必要になってこようかなと思われます。そこはまだ広報広聴特別委員会と話ができているので、あまり私から出しゃばったことは言えないんですけども、その程度で

お許しいただければ。

どうぞ、細川委員。

○細川委員 前も市議会だよりとの関係でちょっとあったんで、一生懸命やってる広報広聴特別委員会ですので、そこは配慮したほうがいいかなと思いました。

2点目ですが、今回、5年後の大竹市議会の姿をととても興味深く読ませていただきました。私自身は、この5年後もあって、それでじゃ今からの1年後にあるべき姿、3年後までにやっとなきやいけないことを整理したつもりなんですけど。その辺、できたら皆さんから、自分の5年後はこう考えているので今これを緊急性があるからやんなきやいけないという説明をいただくと、すごくよく分かるんですけど。それは、この後からやる予定だったらちょっと言い過ぎたことかもしれないんですけどね。予定にもしないようでしたら、ぜひ皆さんからその話を聞きたいなと思ってます。

○寺岡委員長 ワークシートの意図をしっかりと酌んでいただいて、作成者側としては非常にうれしい限りでございます。

これもランダムにテーマを4つ並べたわけじゃありません。テーマというか問いかけですね。考える順番として、組立てしやすいかなという意思を持って、この5年後の姿で振り分けたり特性をやったりさせてもらってます。その中で、今、細川委員から前提となる皆さんの持つ5年後のイメージがほかのこの1年、3年でやるべきことにどのようにつながっているかという御紹介をしていただきたいというお話でございます。お話しできる方いらっしゃいますか。

小田上委員。

○小田上委員 ワークシート集計のところを見てほしいんですが、市民との意見交換が活発にされ、議会の活動内容や仕事内容が理解されている。ここが一番重要ななと思ってます。やっぱり、議会報告会に行ったときに、市民の方って、行政に対する思いを、市に伝える伝え方と議員に伝える伝え方が今一緒になってると思うんです。ただ、議会・議員としての活動とか、どういう仕組みで動いてるというのをもっと理解していただいて、議員って基本的に市の側の人じゃなくって市民の側の人だと思ってるので、その関係性というのをしっかり分かってもらうためには、やっぱりモニター制度で議会ってこういう立ち位置なんだというのを分かってもらう。それを分かってもらうためにも報告会の頻度を上げていく。今みたいにちょっと肩肘張った準備の仕方じゃなくて、もうちょっとラフな準備の仕方で行き組んでいければ、そういう方向に近づくんじゃないかなと。そうなってくると、各自治会とかの住民自治しているところ、あと市民団体というところも、自分たちはこうやって活動していけばいいんだというのが明確になってくるのかなと思うので、そうなれば市民と市政という関係が近くなるのかなと思ってます。そのきっかけは、やっぱり議会の仕組みを分かっていたく人を増やすのに尽きるのかなと思って、僕自身はモニター制度と報告会のあり方を変えていくべきじゃないかなと思ってました。

以上です。

○寺岡委員長 ほか、御紹介できる方いらっしゃいますか。

どうぞ、末広副委員長。

○末広副委員長 私は、緊急性の高いものに、報告会と選挙時期、あと、成り手不足を挙げさせていただきました。私の意見として、今やっぱり議会に興味持たれてない方が多いので、そこに存在意義を大きくアピールする必要があると書かせていただいて、小田上委員が言ったこととほぼほぼ一緒なんですけども。もう下がり切ってやるときエネルギーと、今のうちにやったほうがいいというエネルギーは違うと思うんです。本当に興味持たれてないところでやってやると多大なエネルギー使うんですけども、今が投票率が高いとかそういうわけじゃないんですけども、どんどん下がる前に早く取り組むべきなんじゃないかというところで、例えば、選挙時期を早めて市長選と一緒にやれば、投票率の改善も見込まれて、市政の参加も促せるので、報告会や選挙時期については早くやるべきじゃないかと考えます。

以上です。

○寺岡委員長 山代委員。

○山代委員 私は、市議会として一定の品位・モラルを共通認識としてなんですが、まず基本条例の深掘り、意見は当然皆さん違うと思うんですけど、これが直接的に同じ土俵の上で話合えるという土壌になると思います。それと、それができたら一般質問含めて市政の政策提案の部分もつなげていけるんじゃないかなと思います。議会内できちんと議論ができて、公平性・透明性に基づいてというところは、議会報告会のあり方であったり、モニター制度を取り入れて、一般市民の方々から意見を取り入れつつも、そこで市民に開かれた議会というものを明確に打ち出していきたいと考えております。

以上です。

○寺岡委員長 小出委員。

○小出委員 私は、5年後の姿に、議会、議員の広報・広聴活動が定着し、市民の政治に関する関心が高まった。自らのキャリアを市政に役立てようとする議員志望者も増加し、定数を大幅に超える候補者が立候補する状況となった。選挙時期も春先に変更となったことにより、選挙活動に市民が関わりやすい環境も整い投票率も向上したと書きました。投票率の向上であるとか、選挙が成立して候補者が出てくるというのはあくまでも結果であって、昨年、選挙が辛うじて成立したからそれでいいということではなくて、やっぱり市民がどれだけ市政や政治に対する、議会に対する関心が高まってきたかの結果が、候補者の立候補であったりとか投票率の向上につながると思います。そういう意味からも、議員の成り手不足解消は、イコール、いかに議会とか市政の魅力を高めるか、あるいは議会と市民の距離を近づけていくかということにつながるの、その辺は研究していかないとけないことだろうと思います。

○寺岡委員長 私、いいですか。

私は、長々と書いたんですけど、最後にある「議会に対する市民の信頼が深まってきていると感じる」これに結びつくような流れをイメージしました。

要は、しっかり仕事をして、市民が認められるような細かな意思の伝達。市民が言ったことをそのまま議会で言うとかじゃなくて、議会運営で大竹市議会の存在意義があるような取組はできているかどうかというのが、すごく考察する中で行き着いた一つの道筋です。

②成り手不足の解消の一番下に、普遍性と書かせてもらってます。うちに限らず、恒久的な課題なんですよ。議会活動、民主主義に対して住民の皆さんがどのような関心を持っておられて、自分事として捉えてくださっているか、それは手段ではなくて理念ではないかなと思います。その手法として、議会報告会や議会モニターという手段が制度の設定というのが浮かぶんですけども。ただその前に、先ほどのちょっと戻ってもらって、⑤基本条例の深掘りは、全ての改革改善の根拠でもあると思うんです。改革改善した結果が基本条例と離れていては、公の組織として整合性が取れないですので、基本条例をタイムラインのところでは、結論・成果を得ておかなければならないというところに置かせてもらって、手段としての議会報告会のあり方、1年以内に結論を出しておかなければならない、また、モニター制度は方向性を出しておかなければならない、このように手段を結びつけております。そういったところで、5年後の姿が市民の皆さん方に信頼できる議会になってきよるなと思ってもらえるような道筋をつくっております。あくまでイメージです。

以上です。

細川委員はどうか。今、何名かの方発言ありましたが、追加で何か伺いたいことがありますか。

どうぞ。

○細川委員 私自身が聞きたいと言いながら、自分の思いを申し上げてなかったので少しいいですか。

今委員長のお話を聞いて、私の頭の中が見えてたのかなと思ったんですけど。私自身は5年後の姿としたら、やっぱり市民の皆さんに議会に関心を持っていただいて、その中から多くの方が関心を持って市議会議員になっていただいて、多様な方がここにいるという辺りを目指してるんですけど、そのために何をしたらいいかという中で、自分としたらモニター制度ですよ。具体的には、議会モニター制度と議会報告会。早めにやったほうが市民の方にもっと関心を持っていただいて、市政と自分の生活が身近だということを感じてもらえるためには、今ある議会報告会をもっと形を変えたほうがいいかもしれないし、ぜひ議会モニター制度をつくって、直接的に議会と関わって自分の意見も言えるような、そういうのは早めにセッティングしていくことで、将来の成り手を育てていくという作業が今必要ではないかという思いで、この5年後の姿と今やるべきことをつなげてきました。

皆さんいろいろ思いが5年後に向けてはあろうかと思いますので、皆さんに聞きたいなということです。

○寺岡委員長 お答えできない場合もあるかもしれませんが、まだお話しされてない方いらっしゃいますか。御自身が出されたワークシートの思考のフローについて表現したい方いらっしゃったらお話しいただいて結構ですが、いかがですか。

細川委員、じゃこの程度でよろしいですか。

○細川委員 はい、ありがとうございます。

○寺岡委員長 そのほか、問合せ等ございますか。

小出委員。

○小出委員 タイムラインの特に今回は調査テーマとしないという項目で、④定数減と多く

の方が挙げていらっしゃるのですが、定数減を挙げた方に御質問したいんですが。

定数減という選択肢にはちょっと違和感を感じたんですが、定数減か定数増か現状維持かと私は思っと思ったので。今の太田市における定数のベストな数はどのようなものかという研究したかったというのがあるんで。多分、未来永劫、今の定員数でいいということではないと思うんですが、この2年間において定数の議論をしないということは、もう今現在の定数で今後2年間はベストであると思っいらっしゃるのでしょうか。

今、市政に聞こえてくる声の中には、定数を減らしたほうがいいんじゃないかというほうが多いように感じます。そういう方々に納得のいく答えを示さないといけないんじゃないかなと思うんですが。議論しないということは、過去の議論で出尽くしてて、今の定数がベストであるので、過去の議論を読み取って、個々に市民の方に説明してくださいということと理解してよろしいでしょうかね。その辺ちょっと教えてほしいんですが。

○寺岡委員長 前回の会議のホワイトボードをご覧ください。④定数減と、豊川委員が提案してくださったと思うんですが。このときに私は「減ですか」と確認したら、「そうです。減です。」とお答えくださったと思います。ですので、あくまで定数減についてどうするかが前提となっています。その上で、そうじゃないよね、もっと広げましょうということであれば、またちょっと委員会運営の組立てを考えていかなければいけません。その辺りも踏まえていただきながら、皆さんから何かお考えあれば聞かせてください。

細川委員。

○細川委員 前回の自分の発言としたり、この前の4年間、そしてその前にも戻って、ずっと定数についてはやって、もう結論が今現状維持と出てるので、今は取り組む必要ないんじゃないかみたいな発言をしてると思うんです。今がベストだと思ってるかといった問いがございましたが、今までの流れの中でもベストと思ってるわけではないと思うんです。だけど、まあ一応ベターだということだと思うんです。適切な定数がどれになるかという議論をしていったら、前回の自分自身の見解の中では、もうこれだけで物すごい仕事量になるんですよね。議会の仕事の棚卸とかも全部やって、太田市の財政面、面積、人口とか、様々な角度から定数について議論しなきゃいけないよねという議論をしてきたんですよ。その上で、現状維持になったんですけれど。市民の方からは定数これぐらい必要、もっと減らしてもいいんじゃないかという声は、確かに私も聞いたことがあるんですけど、その理由まで聞くと、どうやら議会・議員の仕事がよく分からないとか、何をしてるか分からないとか、究極論としてはなくてもいいんじゃないかというところまで行き着くんですよ。要するに、今の私たちのやってることを理解していただいてない。そこが原因ではないかと。だから、皆さんにどういう議会になってほしいかというのをもっと深く考えていただいたら、安直に定数減というのはなかなか行き着かないんですよ。もっと話し込んでいくと、いやいや、心の奥の中では皆さん議会に対して必要性も感じているし、期待もしてらっしゃるし、安直に減らせればいいと思っいらっしゃるわけではないけれども、出てきた言葉としたり定数減みたいな言葉は確かに出てきます。だから、そこをもっと深掘りしなきゃいけないと思います。前回の4年の中では、そこらを話した上で減らせればいいのか増やせばいいのかというのは、議論の中で出てこなかったんで、現状維持となってる

思うんですね。もう、だから、定数減という言葉が出てくる根本には、もっと議会ってこうあるべき、こういうことをしてほしいとかがあると思うので、むしろそこをしっかりとやってたほうが、市民の皆さんの思いに応えることじゃないかなというのがあるので、今は定数減を議論するよりも、議会のあり方をもっとしっかりとしていくほうが先じゃないかなと私は思ってます。

まとまらなくて、申し訳ないです。でも、今の数は、ベストじゃないと。ベストではないとは思いますが、ベストが何かというのは意外とないんですよ。どこを探してもそういう資料や公式もないし、自分たちで考えなきゃいけないことなんだとは思いますが、もう1日、2日で答え出ないんじゃないかなと思います。いずれは、やんなきゃいけないことかもしれませんが、大変なことだとは思ってます。

○寺岡委員長 細川委員以外にも、テーマとしないという御提案くださってる方いらっしゃいますが何かお話あります。末広副委員長。

○末広副委員長 細川委員と一緒になんですけど、別に今がベストと思ってるわけではなくて、確かにここで話すのは非常にエネルギーを使うところでもあって、理由として書かせてはいただいているんですね。私は、先に選挙時期を結論を出すべきではないかと思います。理由を読ませていただくと、定数減は人口減による税収の減収から予算の削減や成り手不足による選挙が行われてないことが理由とされている。成り手については、欠員が1いるとはいえ前回の選挙は行われており新人も多く出ている。基本的には、議員が多いほうが市民へのコミュニケーションも増えます。そのため、先にいきなり定数減という話をするよりは、予算削減という意味では選挙時期を改めるほうが先に結論出すべきなのかなと思って、今回このテーマ②定数減については話し合わずに、こっちを先に結論出すべきじゃないかということで、今回は取り上げないとさせていただきます。

以上です。

○寺岡委員長 ほかの方から御意見ありますか。

山代委員。

○山代委員 私もさっき細川委員が言われたように、定数ってどこが正解なのというところはないと思います。確かに、大竹市の人口規模5万までの市で比べると14名から18名ぐらいが適正ではないかという数は出てるんですが、市によって財政も大きさも違いますし、成り立ちも違うというところで、きっちり当てはめられるかというところすごく疑問が残るところです。この人数で言えば、中小企業みたいな感じだと思うんですが、議員定数って要するにリストラですよね。議員定数を減らすではなくて、一般の中小で考えたときにリストラってもう最後の最後なんですよ。議員を減らすということは、私は議員の中の仕事の中にはシンクタンクとしての意味合いも持つと思ってるので、調査分析をするところ頭数が減るということは、市民の声が市に届きにくくなる部分もあると思いますので、そこは今回は議題に上げないとさせていただきます。

以上です。

○寺岡委員長 せっかくですから、岡委員も何か御紹介いただけたらと思うんですけども。このたび定数減を調査テーマとしないと御回答をなさっていますが、何かありますか。

どうぞ。

○岡委員 先ほど、細川委員が言われたことに関係あるんですけど、要するに、最初の私が考える5年後の大竹市議会の姿のところで、少し詳しく書いてあるこれに尽きるのですけども。結局のところ、市民の意識が高まった結果でなければ、いろいろやってもその有効性というのはどういうものかというのは、私はすごく疑問なわけです。例えば、市長選と合わせてやれば、それは投票率は高まるのだけれども、議会の意味とかそういうものを十分理解したその結果、多くの市民が投票に行って投票率が高まるというのと、同じ投票率が70%に仮に達したとしても全然意味が違うので。前のラウンドで決まった、方向が出た、市議会だよりでやるという話がありましたよね。これが実を結ぶには、5年、10年はかかると私は思っています。5年で何か兆しが見えるというのは、これもまだ願望の部類であって、やはり10年とか、場合によっては20年ぐらいの期間で、この内容を何度でも使えるような内容、またこの内容を使いたいという豆知識とかになるように議論を重ね、内容を充実して、要らないものは省いていき、足りないものはもちろん補充するということをやって、それをしかも繰り返し繰り返し出して初めて市民の意識を高め、その結果、投票率も高まるとかそういうものでなければならぬと私は思っていますので、ほぼそれに私は尽きているように思います。

定数減についてもそういう理解がない状態だと、どうしても何をやってるんだろうと。つまり前も言いましたが、市民から見ると、議員というのは市役所の一部だと思われる節がある。節があるというか非常に強い。何でそれ質問するんだと思っている市民が非常に多いんです。ただの自己アピールであろうと疑ってる市民も多いわけです。だから、そのためには前のラウンドのその企画、これは私はまだ子供が生まれた状態だと思っているので、これを育てていかなければいけないと思っているわけです。

○寺岡委員長 今の岡委員の中で、ついでにちょっと私も紹介させていただければ。今回、私が考える5年後の大竹市議会、5年後とした理由は、私たちのこの任期が3年たったら終わります。次の方々の任期の真ん中辺りということで5年後にさせていただきました。それ以上の10年、20年というのは普遍性に表現をさせていただいてますので、皆さんには伝わってるかなと思ってましたが、そういった意味がありますので一応説明させていただいておきます。

どうぞ。

○小出委員 いろんな御回答をいただきまして、ただ自分としてはこの定数問題については、この議会のあり方調査研究特別委員会ではかかせない内容だと思いますので、1つのテーマとして残しておいていただきたいと思います。

今現在15名でやっておりまして、1人欠員の状態であって何とか成り立ってるということもありますし、じゃ次回の選挙のときも定数16名でやっていっていいのか。大竹市の人口が今後2万人、1万5,000人、1万人であるとかどんどん減少していったときに、投票率は別の問題として、投票率というのは割合ですから、人口の減少に応じてやっぱり議員の定数というものも減少していかないと、市民の同意が得られないものかなと思うんですが。ただ、この議員数が減ると、やはり今の仕事が全部消化できないということになり

ますので、じゃ最低議員数は幾らぐらいかという話、議員数が減っていったときに議会自体がどのようなあり方になっていくのかという話もしてみたいなと思っておりましたので、定数減に限らずに、定数問題についてはぜひテーマとして残していただきたいと思います。

○寺岡委員長 前回の会議で、議会改革特別委員会が4年かけて結論を出して行って、どのようにその結果を評価しているのかというところは、それ以降いかがですかね。前回のときはちょっとまだ読み込んでなかったというお答えがあったと思うんですが。それ御覧になられてから、プラスしてどの辺りをお話されたいですか。

○小出委員 定数減にするには定数減にするなりの理由が必要だと思うんですね。ただ、じゃ現状維持ということについては、現状維持に対する理由が必要だと思うんですよ。それは当初の一番最初のテーマ決めのときに私は言わせてもらったんですが、納得のいく理由がいただきたいなと思ひまして。当然、この定数問題というのは、議題にテーマに残るものだろうと思ってましたので、すみません、そのときにちょっと深掘りさせてもらおうと思ってたんです。

○寺岡委員長 ただ、先ほどもちょっとお話ししたように、今回が定数減に提案者がこだわっておられたので、維持なら維持の理由が要するという辺りも含めると、ちょっと組立てがまた変わってきますので、これにつきましては、ちょっと考えさせてください。

何かありますか。

小田上委員。

○小田上委員 今定数の話になってるので定数の話で。

定数減というところで議論してもいいんじゃないかなと思ってました。前身の議会改革特別委員会で、当時は委員でいたんですけど心残りだったのは、今後、大竹市議会はどういう市議会を目指すのが導き出せないまま、むやみやたらな定数の変革は止めようという流れになったような記憶もあります。なので、個人の意見をもし言っていえば、定数10人くらいにして専門性をしっかり持ってやるほうが、議案に対してはかなり専門的にやってくださいと言えらると思います。ただ、市民の意見をどう酌み上げるのかとなると、数が多いほうがいいと。数が多いほうがいいよねというんだったら、報告会とかモニター制度に関わるんですけど、市民の人たちが自分たちの活動をどう市に意見を伝えていくのかということをしつかりと自治会とかそういう市民たちの市民の中の団体でしつかり意思表示をすれば市には伝わるんだと。専門性を持ってしつかりと議案審議をして提案をしていって、専門性を持った仕事をやるんだという役割分担がしつかりできれば、定数は減らしていっていいと思うんです。ただ、それは僕の意見であって、大竹市議会の意見ではないので、どういう大竹市議会を目指すかをしつかり話し合うべきだとは思ひます。僕はその思いで減にしてもいいと思ひてるので、そこ3年以内でと書きましたけど、どういう議会を目指すかという話は、減というところを通じてやったほうがいいのかとは思ひます。

以上です。

○寺岡委員長 テーマを残してもらいたいという意見をお持ちだということでございました。そのほか何かありますか。

活動計画をご覧ください。今、優先テーマ決定で、5月、6月で決めていきたいと思います。

いうことでした。今6月の初旬であります。今日もちろん決めても構いませんし、考え方としてこれは今皆さんそれぞれ深めていただいている途中なんです、これは今回はいい、ほかの人の話を聞いて外してもいいよねというのでテーマ候補を減らしていくというやり方。逆に、内容にもよると思いますが、何個するか今は決まってません。6月いっぱいまで一応時間的には余裕がありますので、もっと討議を深めていきたいと思われるか。あと、これはもう最終手段だと思うんですけど作業テーマの数を先に決めて、例えば1から3までの点数つけて、点数の多いものから優先的にやっていくということもありえますが、これはファシリテーションの業界では禁じ手に近いものがありますので、できれば避けたいなと思います。最終的にはもう議会の採決と同じでそうせざるを得ないとは思いますが。要は、今日のこの午前中の残りの時間をもっと協議していきたいかどうかというのをこの10分間で考えて、あるいは休憩の時間中に考えていただきたいと思います。委員の皆さんが運び、意見が集約されるのであれば、そうさせていただきますし、いやもうこれはさっきから話題にも出てないし、もう外してもいいんじゃないかねというのであれば1個ずつ外してもいいし。じゃ、15分時間取ります。11時20分再開にいたしますので、6月いっぱいまで時間かけて、もっと議論をしたいというのがありますし、これないよねというのを減らしていく、加点方式でテーマを決定、この辺りで自分だったらこうしたいなというのを御意思を自分の気持ちの中で決めておいてください。一旦切り替えていきます。

休憩します。再開は11時20分にします。

11時08分 休憩

11時20分 再開

○寺岡委員長 それでは、会議を再開いたします。

休憩前にお尋ねしておりました、今後もう少し話がしたい、もう議論は十分かもしれませんが、もっと意見交換したい、それとも、結論を出すことに少しずつ向いていくか、それとも一気にばしっと決めていくか、皆さんいかがですかね。休憩中お考えいただいたんじゃないかと思いますが、いかがでしょうか。

小田上委員。

○小田上委員 1つのテーマ候補を話し合いながら減らしていくのがいいのかなと思います。

具体的にこれは残したいというものも言って大丈夫ですか。

○寺岡委員長 方法です。

○小田上委員 じゃテーマ候補を減らしていくという作業が、今月中時間かけてできればなと思ってます。

○寺岡委員長 ほかお考えはいかがでしょうか。

山代委員。

○山代委員 私も小田上委員に考えが近いんですが、テーマ候補を減らしていく。もしくは、加点方式で決める。ただ、それをする前に議論は尽くすべきだろうなと思います。6月までということなので、まだちょっと時間はありますので、まずどうしようかという議論ありきで考えていただければと思います。

以上です。

○寺岡委員長 ほかいかがですか。

細川委員。

○細川委員 タイムライン作っていただいて1年以内と3年以内に分けていただいているので、私たちの任期のことを考えたら、1年以内を優先してやっていくべきじゃないかなと。だから、この中からチョイスしていく。どれを決めるかはもうちょっと話をしないといけないと思いますが、1年以内の中から取り組んでいくべきじゃないかと思います。

○寺岡委員長 具体的なやり方ですね。

ほかはどうですか。

末広副委員長。

○末広副委員長 細川委員の補足みたいな形になりますけど、1年以内と3年以内でざっと見てみると結構偏ってるというか、方向性が見えてるんじゃないかなと思ったりするので、ここからが取り組むのは私もありなんじゃないかと思います。それを6月で議論し合うのがいいのかなと思います。

以上です。

○寺岡委員長 あとはどうでしょうか。

どうぞ。

○小出委員 私もこのタイムラインの1年以内に出てきたように、この中から優先すべきを選んでやっていったらいいと思います。

○寺岡委員長 岡委員、豊川委員、何かイメージがあればお話しいただきたいんですけども。

豊川委員。

○豊川委員 加点方式でテーマを決定していくというのがいいと思うんですけども、その前に議論も必要だなと思いますので、議論をしながら加点方式でテーマを決定していけばいいんじゃないかなと思います。

○寺岡委員長 岡委員も、このたびは二重丸は特になかったみたいですけど、何か思いがあれば聞かせてもらえますか。

○岡委員 それについてはワークシートに書いてあることにもう、先ほど言いましたように、尽きると思います。

○寺岡委員長 じゃ、今後の議論のやり方というのには、特に御意見は今ないと思ってよろしいですか。

○岡委員 少しだけ範囲が広がる話になるかもしれませんが、この委員会の運営なんですが、ちょっと間延びが著しいように私は思っています。やはり、午前にも午後にもやって当たり前というような感覚ではなくて、やはりてきぱきとやるということをちょっと心がけてはどうでしょうか。細川委員から先ほど、今後の議会が多様な人が構成員になってほしいとありましたが私もそう思っています。ただ、この中継を見て、こんな間延びした会議にはちょっと自分は付き合えないよと思う人というのは、相当な人がいると思います。これはもっとてきぱきやるべきだと思います。こんな午前中の間にぱっと片づけようというぐらいの心意気でやって、午前はまずこうやってというようなですね、そういうのは

ちょっと避けるようにしたいと思います。

○寺岡委員長 もっとてきぱきという御意見だと思います。もっともな御意見だと思うんですが、先ほど、くしくも岡委員御自身でおっしゃった、議会だよりも市民の皆さん方に議会を理解して親近感を持っていただくといったのに、5年、10年かかるというのと同じで、我々も表面だけであれにしましょうこれにしましょうというわけにもなかなかいきませんので、こういった意見交換、議論を通して、この課題についての理解を深めていくという狙いも、これまでもお話ししてと思うんですけどね。そういった狙いもありますので、組立てにしてはてきぱきできるように心がけていこうと思いますので、引き続きよろしくをお願いします。

タイムラインの1年以内から決定という御意見が新しく追加されました。これは言えるかなと思います。その御意見に対して何か反論とかありますか。我々の今のこの委員会のメンバーが保障されているのが、この1年であると。この1年で成果・結果、方向性が出るものについて取り組んでいきましょうといった旨の御意見ではないかなと思うんですが。

小田上委員。

○小田上委員 すごくいい提案のように聞こえるんですが、1年以内から消えるのは成り手不足だけで、結果、残り5個どうするかという話になるので、このテーマ候補を減らしていくという作業が一緒なのかなと思います。

以上です。

○寺岡委員長 ちょっと補足すると、1年以内という中でも、何々しなければならぬ、何々べきおきたいという感じで、ランクづけというところちょっと語弊があるかもしれませんが、振り分けもありますので、その辺りが選定の基準になってくるかなと思います。あくまで目安にはなってくると思います。

どうぞ。

○小田上委員 目安として使っていいのであれば、このタイムライン、どなたがどう考えて、この数の多さを目安にしていんだったら、この1年以内から決定というのはありだと思います。

○寺岡委員長 そういった御意見ありますが。

どうぞ、細川委員。

○細川委員 私は、優先順位として、1年以内のものからまずやって結論を出さなきゃいけないとは思いますが、だからといって、ここから下にある部分はやらないという結論は、今ちょっと小田上委員が落とすとおっしゃったんで、ちょっと気になったんですけど。結局、1年ではなかなか取り組めないけど、こういう問題はやっぱりしっかり議論しなきゃいけないんじゃないかなと思ってますから、完全に消えると私は思っていないんですけど、どうなんでしょうか。

○寺岡委員長 消してしまったら、次の委員の皆さんが引き続いて3年以内のものを取り上げてくれるかどうかというのは分かりませんがね。ある程度、一定の考えは示しておいたほうが親切ではあるかもしれませんね。

小田上委員。

○小田上委員 この6項目についての意見をもって、次の2年間を担ってくれる委員会に任せるとするのは分かるんですけど、いずれにしても、この6月中にどれに取り組むかということを決めないといけませんよね。なので、その作業をするためには、消していくしかないと思いますよ。気持ちは分かります。ただ、取り組むものを決めないといけないというところでは、落としていかないといけないのかなと思うんですけど。

○寺岡委員長 加点方式はいささかまだ早いと私も運営上思います。まだまだ意見交換する場面もあると思いますので。次回、21日金曜日が定例会の中の予定です。これは議会運営委員会で決まりますので、予定でしかないんですけども。そのときに先送りするという感じで、今日は決めないということによろしいですか。この意見は今日出なかったの。それか、それまでにもう一回、二回やってももちろんいいんですけどね。

小田上委員。

○小田上委員 これからの運営に関しての投げかけだったと思うので、どういうふうに決めていくかというのを決めて、例えば、タイムライン内の1年以内から決めることにもしたとすれば、現段階の意思表示はできると思うんですね。それをした上で、また次回に臨むまではやっておけるのかなと思います。その意思表示について会派内で話をしたいとか、持ち帰ってから一度考えたいということであれば別ですけど、そこまではなくてももうワークシートを書かれた時点でまとまってると思うので、そこまではできるのかなと思いました。

以上です。

○寺岡委員長 今日のやり取りの中で意見が変わった方はもちろんいらっしゃるかもしれませんが、あまり大きく変わったというのは今のところ伺えませんので、この中から候補を上げていくというのはありかもしれませんね。それでいきましょうか。

細川委員、どうぞ。

○細川委員 すみません、1つに絞ると。

○寺岡委員長 それを決めます。

ただ、中身によっては、すごく大きなテーマを2つ抱える力が我々にあるかどうかというところも考えなければいけませんね。

今の時点で皆さんのお気持ちを伺っておきましょ。1点、7月から取り組むことはこれじゃないかというのを伺っておきましょ。

〔「1点ですか」と呼ぶ者あり〕

○寺岡委員長 それで決定というわけではもちろんないです。

休憩してやりましょ。

休憩します。

11時34分 休憩

11時35分 再開

○寺岡委員長 再開します。

山代委員。

○山代委員 私は、この中からであれば、議会報告会のあり方をテーマ②に据えるべきじゃ

ないかなと思います。

私は市民に開かれた議会と書きましたけども、距離が少しでも近くなるという部分を狙って、市民の方にもっと市議会に興味を持ってもらいたいという思いで挙げさせていただきました。

以上です。

○寺岡委員長 繰り返しになりますが、今の時点のあくまで参考で構いません。本当であれば二つ三つは言っていたきたいんですが、まずは1つ、傾向を知りたいので、お願いします。

ほか。

小田上委員。

○小田上委員 1つということであれば、議会モニター制度です。理由としては、議会内部のことを変えるときに、やり方がおかしいんじゃないかとか、以前あった議会の常識が市民からすると非常識だったりというところがあると思うので、それを直接感じてもらって教えてもらえるのはモニター制度かな。このことによって、いろんなところも進みやすくなるのかなと思うのでモニター制度が1つ目かなと思います。

以上です。

○寺岡委員長 末広副委員長。

○末広副委員長 ちょっとばらけて申し訳ないです。私は選挙時期です。変えないとしたら別に焦る必要ないんですけど、1年早くする、半年早くする、ここら辺の結論に至る可能性があるんだったら、今やっておかないとまずいかなと思います。

以上です。

○寺岡委員長 ほかどうですか。

細川委員。

○細川委員 私の心の奥底の思いは、今の出た3つを同時並行できるんじゃないかと思っておりますが、あえて1つに絞るということであれば、モニター制度です。自分自身が考えている将来の成り手不足をいろんな方に議会に来ていただくためには、やっぱりモニター制度を動かして関心を持ってくださる、実際に声を上げてくださる人を増やしていくことが一番近道になると思ってますので、まず、どうしても1つということであれば、モニター制度です。

○寺岡委員長 小出委員。

○小出委員 私は、やっぱり選挙時期ですかね。理由としては、末広委員が言われたものと同じです。

○寺岡委員長 豊川委員。

○豊川委員 私も、末広委員と小出委員と同じで、選挙時期を見直すというのが、1つに絞るのであれば必要じゃないかと思います。これ市長選と市議選をセットにするのか、統一地方選とはセットにするのかという議論も時間が限られてますので、緊急に議論が必要じゃないかなと思いました。

○寺岡委員長 岡委員、どうぞ。

○岡委員 私もあえて1つに絞れというなら、モニター制度になるかと思います。ただ、これもさっきも言いましたように、高い意識を持って参加してもらえないと、思いつきに振り回される可能性はある。例えばですけれども、小方のまちづくりのところでも、市民の意見を聞くのはいいんですけども、そこで出るのが、道の駅にはドッグランがあったらいいですねとか、体育施設があるんだったら温浴施設があるといいですねとかという感じで、ただ実際の実現可能性とか様々なことをやっぱり考えないといけないんですが、そういう意見が出るとどうしてもやっぱり振り回されてしまう可能性が。あえてどうしても1つというのなら、そういうことになるということになります。

○寺岡委員長 私も発言させていただくとすれば、私は報告会のあり方ですね。このたび、試みがこれまでの流れと変わりました。その成果が7月終わりには出ると。それで改めて見直して、より報告会の本来のあり方に近づくにはどうすればいいのかと考えるのは頃合いではないかなと思います。7月から8月にかけての報告会と反省を踏まえたつながりという意味での報告会かなと思います。

皆さん無理に1つ今挙げてもらいましたので、本当はこれも一緒にやらんと意味ないよねというのは私の中でもあったりしますので、皆さんもそうじゃないかなと思います。ただ、あくまで参考としながら、次回これら3つプラスアルファの中で、話が前に進んでいけばいいかなと思います。

ちょっと休憩します。

11時41分 休憩

11時43分 再開

○寺岡委員長 再開いたします。

では、次が6月21日なんですが、必要であれば来週どこかでやりますけど、考える時間が要るのであれば、21日で構わないと思いますが、いいですか。

じゃ、次回はもう決定を前提としていきたいと思います。本当に繰り返しになって申し訳ないんですが、先ほど出た皆さんの、もし1つするんであればというのは、あくまで参考ですのでね。そこは惑わされないでお願いいたします。

じゃ、また次回までにしっかり考えまとめてきておいてください。6月定例会議案もですし、質問される方もいらっしゃるでしょうし、大変だとは思いますが引き続いて御協力をお願いします。

では、以上で今日の会議を終わります。ありがとうございました。

11時44分 閉会